

知床世界自然遺産登録 20 周年事業 「世界遺産と地域」企画の進め方について

公益財団法人 知床財団

20250305_2024 年度第 3 回科学委員会 提案
20250324_2024 年度第 2 回地域連絡会議 提案
20250416_20 周年実行委員会 報告
20250627_2025 年度第 1 回エゾシカ WG 協議
20250715_2025 年度第 1 回海域 WG 協議
20250731_2025 年度第 1 回ヒグマ WG 協議
20250801_2025 年度第 1 回エコツーリズム WG 協議

1. 企画趣旨

知床は 2005 年 7 月 17 日に日本で 3 カ所目の世界自然遺産に登録された。このことは知床世界自然遺産の管理機関である国(環境省・林野庁)と北海道が知床の自然環境を世界の宝として後世に残すために大きな決断をしたことを意味する。

また、知床における世界遺産のガバナンスは、従来にない枠組みを取り入れることとなった。その代表が、科学的な知見に基づき陸域と海域の統合的な管理に必要な助言を行う科学委員会と、地域コミュニティの参画と合意のための地域連絡会議である。常設で設置されたこれらの枠組みに、地元自治体である斜里町と羅臼町に加え、遺産地域で経済活動や生活をする漁業者や観光事業者、民間団体等も参画し、地域的な課題について対応する体制が整えられていった。こうしたモデルは「知床方式」とも呼ばれ、わが国の世界自然遺産管理のスタンダードとして定着した。

遺産登録から 20 年が経過し、こうした枠組みは安定し、その成果や実績も見える化できる段階に達した。一方、自然と社会の変化を見据え、新たな課題への対応も求められている。地域の人口減少が加速するなか、自然保護区が地域経済やコミュニティにどのような貢献すべきなのか。ネイチャーポジティブが社会目標として注目され、自然保護区概念が拡大するなか、世界自然遺産の価値と経験をどう活かすのか。不確実で将来予測が困難な自然と社会に対し、科学者と地域はどう向き合うべきなのか。

登録 20 年の節目にこの間の変化と到達点について時間軸を踏まえて俯瞰するとともに知床での経験を振り返り、ローカルとグローバルの両面においてこれからの世界自然遺産に期待される役割を議論したい。

2. 企画の概要

（1）科学委・各WG・地域連絡会議を通じた「振り返り」の実施

（2）公開シンポジウムの実施

テ ー マ	「世界自然遺産と地域（仮）-知床世界自然遺産の20年-」
概 要	前項の「振り返り」のまとめの場として、公開シンポジウムを開催。
実施時期	2026年2月～3月ごろ

（3）20周年記念誌の発行

3. 実施体制と費用負担

（1）実施体制

- ・ 世界遺産地域の管理者および地元自治体については、事業主体または協力団体としての対応を検討頂きたい。
- ・ 実施体制については、周年事業実行委員会との連携や合同も相談したい。

（2）費用負担の例

環境省／シンポジウムに関する科学委員会関連分及び会場費など

環境省・林野庁・北海道／通常ワーキングなどに含まれる負担及び職員経費など

斜里町・羅臼町／シンポジウムに関する職員経費、地元団体経費、会場費など

知床財団／全体取りまとめに関する事務、記念誌発行の経費等

4. 科学委・各 WG における「振り返り」の進め方

（１）「振り返り」の趣旨

20 年近く継続してきた WG での議論について、議事や事業の概要を整理し以下のような観点で振り返る。

1. 知床の自然環境とその変化をどのように把握し、認識・評価してきたか。
2. IUCN 勧告や地域課題に対し、どのような施策や取り組み、助言を行ってきたか。
3. 特に、遺産登録前から現在に至るまでの各 WG における主要課題や議論テーマについて中期（3 年～5 年）的なスパンでその変遷を把握し、これらへの対応や施策について振り返りたい。

これらを踏まえ、以下のようなテーマについて議論したい。

- ・ 各 WG 等での取り組みにおいて、特に画期となった出来事、判断、施策等はなにか。
- ・ これらが、学術的な観点または環境政策的な観点としてどのような意義があったか。
- ・ 自然保護区、世界遺産の管理モデルとして科学委/WG の取り組みをどう評価するか。

さらに、次の 10 年をターゲットとして、以下のような観点でビジョンや展望をまとめる。

- ・ 知床 WNHS の、自然環境/社会環境における脅威や共通課題はなにか。
- ・ これらについて、各 WG で重点的に取り組むべき課題はなにか。また、科学委全体としての共通課題はなにか。
- ・ 知床 WNHS のガバナンスにおいて、科学委員会/WG の枠組みや役割はどのようにあるべきか。
- ・ 知床での経験や管理モデルを他の世界遺産や自然保護区に活かし、ネイチャーポジティブに貢献しうるか。

（２）第 1 回 WG/科学委での議論と資料（イメージ）

1. 知床科学委の設立と役割、議論の枠組みとその変遷（2004-2024）
2. 各 WG での議論テーマ、議事概要、実施事業のまとめ
* エゾシカ WG、ヒグマ WG については陸上生態系 WG の流れで一括して整理？
3. 科学委員会（本体）での議論経緯や IUCN 等の国際機関とのやりとり

5. 座長および委員各位へのご依頼事項

（1） 第1回 WG での共有と協議

- ・ 上記資料の説明と今後の予定について説明。
- ・ 資料のレビューや議論ポイントについて意見交換。
- ・ 会議時間の制約もあるため、20 分以内を想定し、追加的な意見交換等は ML 等での実施も可能。

（2） 原稿依頼

- ・ 第1回の終了後に座長に原稿をご依頼。主題は前述の通り、各 WG の取り組みの評価と今後のあり方についての総括的な内容を想定。
- ・ 各位委員に対しては、A4 版 1～2 ページ程度のコメントやアンケートをご依頼し、取りまとめ。
- ・ 具体的な分量、様式については追ってご連絡。
- ・ これらを取りまとめ、第2回 WG で進捗を共有するとともに、3 月実施予定のシンポジウムのテーマとし、記念誌にまとめる予定。

6. 全体スケジュール

次頁参照のこと。

世界遺産登録 20周年事業「世界遺産と地域」 全体スケジュール

